

令和6年度 大阪府立福泉高等学校 第3回学校運営協議会 議事録

令和7年2月20日

於：本校会議室

※授業見学

1. 学校長挨拶

- ・3年生は106名全員の卒業が確定した。1・2年生は学年末考査期間中で、進級に向けて教員と生徒が互いに頑張っているところ。
- ・令和7年度の本校希望者が大幅減少した。

2. 委員長挨拶

- ・私立高校の無償化に伴い公立高校のいい部分が生かされないのではと危惧する。

3. 今年度の学校評価（校長より）

- ・授業アンケートの数値は高評価であるが、授業への取り組みに課題のある生徒が多い。
- ・教員の授業方法については、生徒の知識や理解につながっていないと思われる部分がある。改善が必要。
- ・就職希望者のうち24%の生徒は一次斡旋就職で不合格その後手厚いサポートをしている。
- ・「他者と協働できる力」の育成について、生徒が参加できる行事が多く、地域の方との交流の機会が多い。
- ・行事の満足度は、高い数値だが「学校へ行くのが楽しい」は69.9%で、行事へ積極的に参加する様子が見受けられる。
- ・基本的生活習慣の確立について、現状のルールにも厳しさを感じている生徒も少なくない。教職員が、生徒への声かけに苦慮している結果が見える。
- ・本校の広報活動や連携強化のために、11月に中高連絡会を開催した。中学校とは良いことも悪いことも共有したい。
- ・OJT研修を3種類実施した。校内研修2回+相互授業見学1回の内、授業見学は8グループで評価し合う形態で行った。良い点だけでなく苦勞している点を共有し、授業担当が相互に助け合うことにつなげてゆきたい。
- ・さくら連絡網については、学級通信の配信などの多様な運用により、教職員の業務が効率化されている。

★質疑応答

- ・高校生をもっと大人として扱ったほうがいいのでは。高校生を大人として見ることにより変わる部分もあるのではないかと。先生方の意見を聞きたい。
→生徒一人一人に合うアプローチを行っている。大人として関わることで生徒の成長につながるというのも一理ある。高校3年間で大きく成長したという生徒も多い。社会生活につながるように接している。
- ・部活を成立させるためにどんな取り組みをするのか。メイク部を部活動とする提案について、生徒たちに協議会からの提案が出ていることを伝えてみては。
→生徒からの要望があればメイク部を作る考えだが、学校教育の基本は授業であり、基本の部分を優先したい。
- ・勉強ばかりが高校ではない。福泉高校としては就職対策も大切ではないか。
→学校として最低限の学習活動は実施しなければいけない。
- ・学校教育自己診断アンケートの授業の工夫について、なぜ保護者と生徒に大きな差異があるのか。

→学校での取り組みが十分に保護者に伝わっていないということが考えられる。生徒が家庭で、保護者にどのように話しているのかを分析する必要がある。

- ・叱咤を受けている生徒が多い。ちょっとしたことで褒めることは必要。学校教育自己診断アンケートの「学校へ行くのが楽しくない」が3割超え。改善の必要がある。
- ・生徒が帰宅して保護者に学校のことを楽しく話せば保護者は満足する。生徒から学校への不満を聞くと、保護者は学校への不信感を抱く。
- ・欠点者や進級卒業が危ぶまれる生徒が少なくないようだが、テストで点を取らせるための授業になっていないか
- ・今の生徒たちには自己決定力が大切。福泉の子たちは生きる力を持っている。実生活で生きていくための力をつけるにはどうすればよいかを考えてほしい。
- ・協議会委員が出した意見に対する答えを返してほしい。
- ・生徒たちのやる気を引き出すような指導を行っていくべき。
- ・福泉の生徒たちは社会的な力を持った生徒たちが多く。そういう生徒を育てる学校をめざしてほしい。

4. 学校教育自己診断アンケート 結果と分析

- ・「学校へ行くことが楽しい」という数値について、学校を欠席する生徒も少なくないが、来た日は楽しく過ごしている。
- ・「授業がわかりやすく工夫されている」の数値が高い。板書だけではわかりにくい内容についてICTを活用するなどの工夫が反映されていると考えられる。
- ・「進路・生き方について」は、HR等を活用している。特に、2年生のHRは進路関係が多く、3年生に向けての指導は2年次から始めている。
- ・ルールを理解しているが守れていない生徒が少なくない。生徒と教員の間に認識の違いがあるのでは。
- ・闇バイトについて文書や動画で学習した。生徒の様子見ていると理解は進んだと考えられるが、手口は日々巧妙化しており、今後も継続して注意喚起を行っていききたい。
- ・いじめについては、アンケートにより状況を把握し、廊下の立ち番を行っている等、速やかに対応できる見守り体制を整えている。
- ・悩みがあったとき、教員に相談できている生徒も多い。
- ・体育祭や文化祭が好きな生徒が多い。頑張った成果を発表できる機会が多い。
- ・生徒指導において家庭との連携をする機会が多く、相互に協力できている。
- ・「保護者が授業参観や学校行事に参加したことがある」について、文化祭などの行事への保護者参加は増えている。
- ・PDCAサイクルを活用して、教育活動全般にわたる評価を次年度の計画に生かす体制ができつつある。

★質疑応答

- ・オンラインカジノや無許可で開講される詐欺まがいの投資セミナー（何歳でも参加できる）の被害は、危険を詳しく知っていたら防ぐことができる。そういった現実を生徒たちに教えていくと良いのでは。
- ・定期試験のための答えがある問いの授業スタイルが多いと感じる。これからは答えがない問いを授業の中にどれほど組み込めるか。生徒が自分なりに意見を言えるような授業を考えたら、人の意見を聞いて他者を尊重しながら自分の意見も鑑みる自己決定力につながる。
- ・定期考査を実施しないなど、なにかするには課題もあるができる方法を探すことも考えてみては。
- ・保護者の「授業の工夫」についてのアンケートの数値が低いのは教員への要望も含まれるのでは。

5. 今年度の取り組みについて

○首席より

- ・各行事において教職員が生徒のことを思い創意工夫を行った。生徒たちも協力してくれた。2月28日の卒業式で、門出を祝いたい。
- ・PTA関連では、次年度からは入会希望をしない保護者には辞退届を提出していただく。

○生活指導部より

- ・日々地道な指導を続けているが、特別指導の件数は改善されていない。
- ・学校生活において寂しさを感じている生徒も多いとみられる。

○進路指導部より

- ・就職希望の生徒が増加傾向で、就職希望者の内定率はほぼ100%を維持している。

○生徒会部より

- ・文化祭のアンケート結果では、肯定的な意見が多い。来年以降の文化祭も生徒にとって魅力的となる工夫をしていく。
- ・計10名の生徒会役員で卒業式に向けたステンドグラスの制作を行った。卒業式当日に体育館で展示披露する。
- ・部活動に所属する生徒が増加しており、放課後の部活を居場所と感じている生徒も多い。

○第3学年より

- ・在籍生徒全員の卒業が認定された。
- ・懲戒件数が大きく減少した。生徒たちと向き合ってきたことが実を結んだと感じている。
- ・生徒から卒業記念パーティーをやりたいという申し出あり、開催を予定している。
- ・PTA新聞に生徒たちから最後の一言を掲載し、1年後の自分に手紙を書く取り組みを行った。

○第2学年より

- ・3年生に向けての取り組みを始めている。自己PRの書き方、面接指導、求人票の見方を学び、就職決定率100%をめざす。

○第1学年より

- ・闇バイト問題への啓発、人権HR、百人一首、漢字検定などを実施した。書き初めで進級に向けた意気込みを書く生徒も多かった。
- ・当初の授業規律を育むという目標は、学習支援員活用する等の対策もあり、ある程度達成できた。

○事務室より

- ・改修工事については、ウォシュレットを前回から6.6%増設している。

★質疑応答

- ・保健室に来る生徒は多いのか。
→心と体に悩みを抱えて来室する生徒が多数いる。保健室で休息する場合は授業が欠課にならないように声をかけている。
- ・面接指導の際、生徒本人の携帯などで動画を撮影し、反省材料とすると良いのでは。
- ・家庭事情等もあるため、教員が担うことは難しい部分もあるが、全生徒が選挙に行くように指導してほしい。

※令和7年度の学校経営計画について

- ・最終的な目標は、生徒が「入学してよかった」保護者が「入学させてよかった」教職員が「働けてよかった」と思えること。
- ・今年度は授業を変えていく仕組みを実施した。来年度も引き続き継続したい。
- ・教員の相互授業見学で意見交換をし、年度末に研修を行う予定にしている。
- ・生徒たちはやり方を知ったら実践できる。「やったらできる」を合言葉に取り組んでほしい。
- ・教員の確保のために尽力している。
- ・生徒たちの学ぶ環境を確保するために注力していきたいと考えている。

★質疑応答

- ・様々な取り組みの結果を知りたい。生徒の反応や正直な声を知りたい。良い意見も悪い意見も聞かせてほしい。今後の取り組みについて、各学年や分掌から意見を出してほしい。
- ・各学年で教育方針を話し合うと変わるのではないか。
- ・学校の内情をもっと知りたい。